

日本小児循環器学会 研究課題B

【成人先天性心疾患患者の就労支援に関する 小児循環器医師を対象とした意識調査】 (2025/3/14 実施)

研究責任者 北里大学医学部小児科学 平田陽一郎

研究協力者 (厚生労働省研究班 研究責任者)

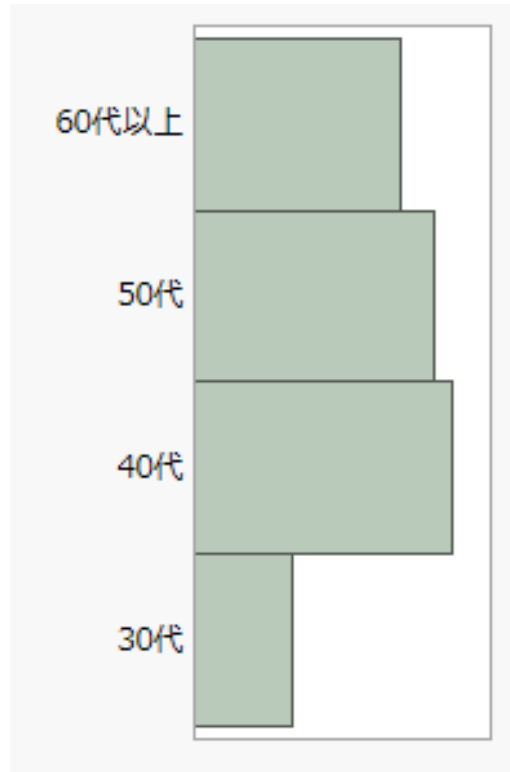
北里大学医学部循環器内科学 小坂橋 俊美

北里大学医学部医学科 川島 由楓

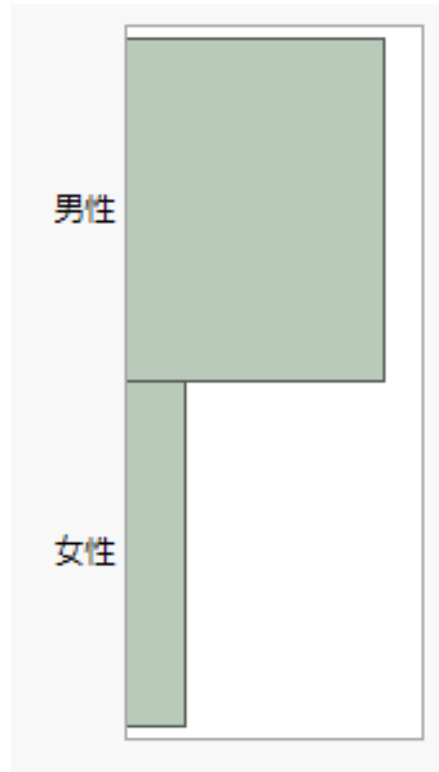
回答者属性

総回答数:560名(会員数 2584、17.6%)

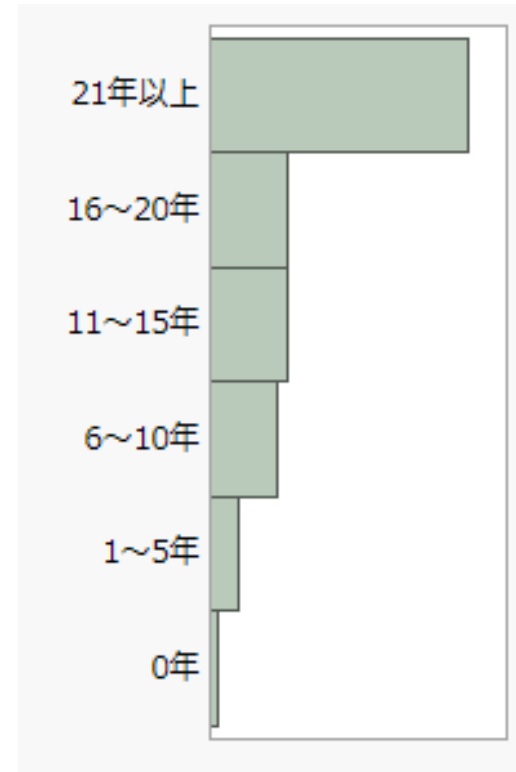
小児科医:445 (79.4%)
心臓外科医:76名(13.5%)
循環器内科医:17名(3.0%)
看護師:10名(1.8%)
その他(SW、理学療法士など):12名



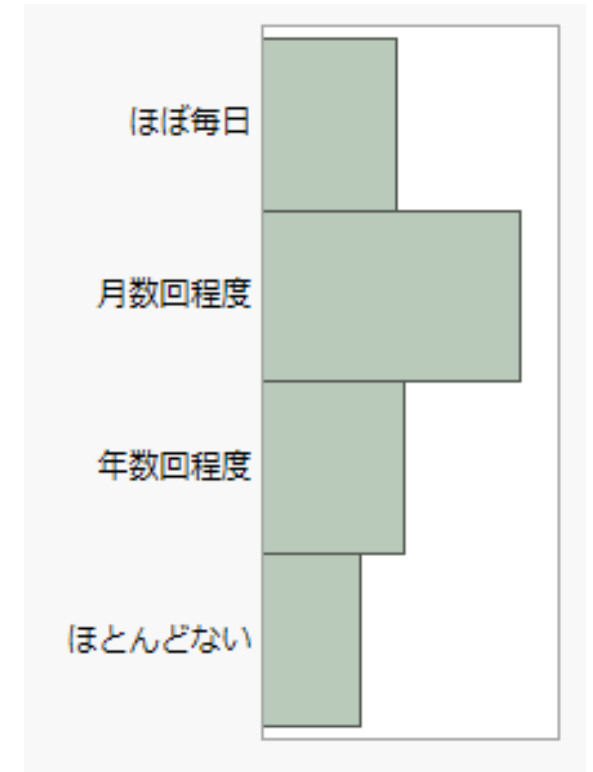
年齢



性別

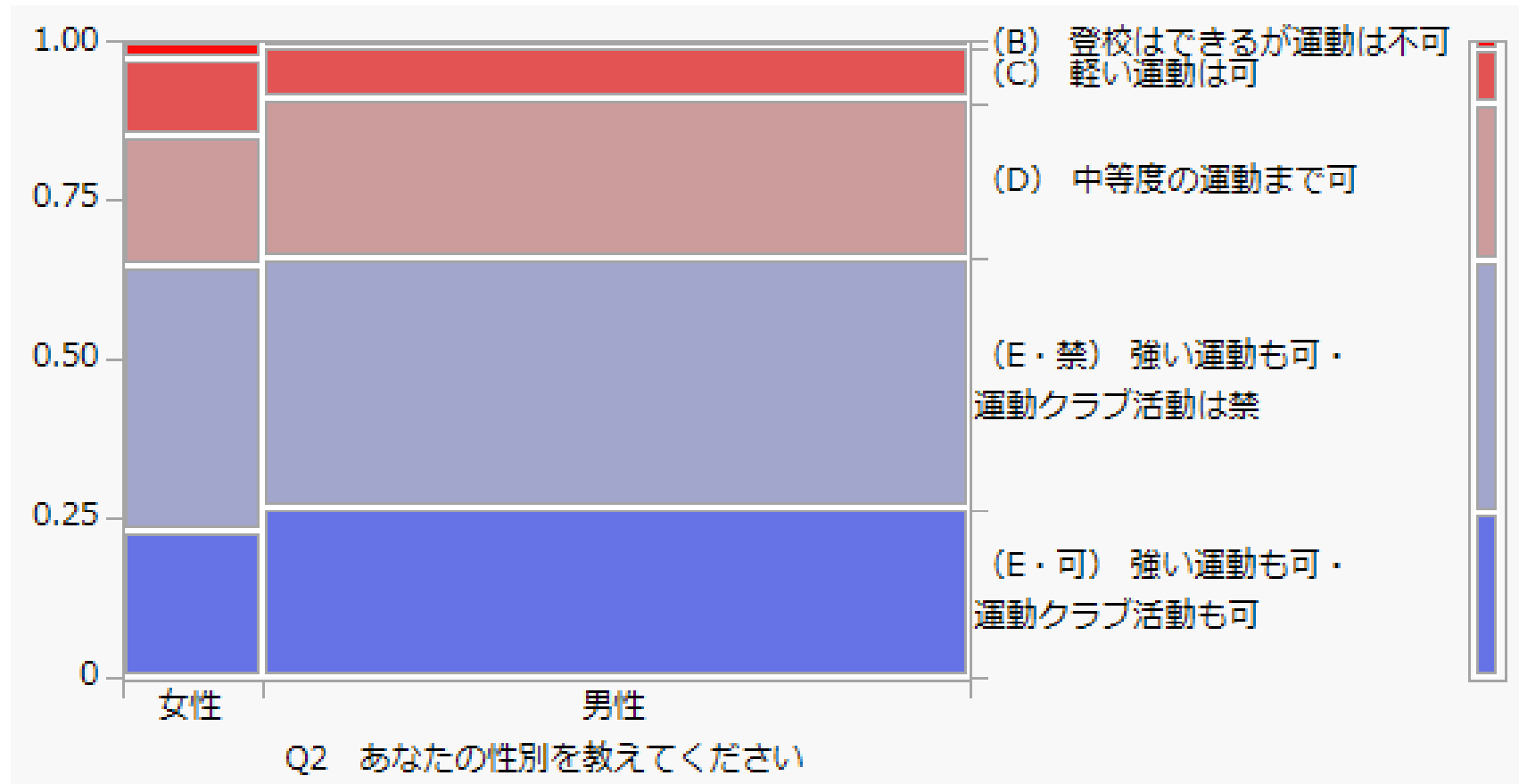


診療経験



ACHD
診療頻度

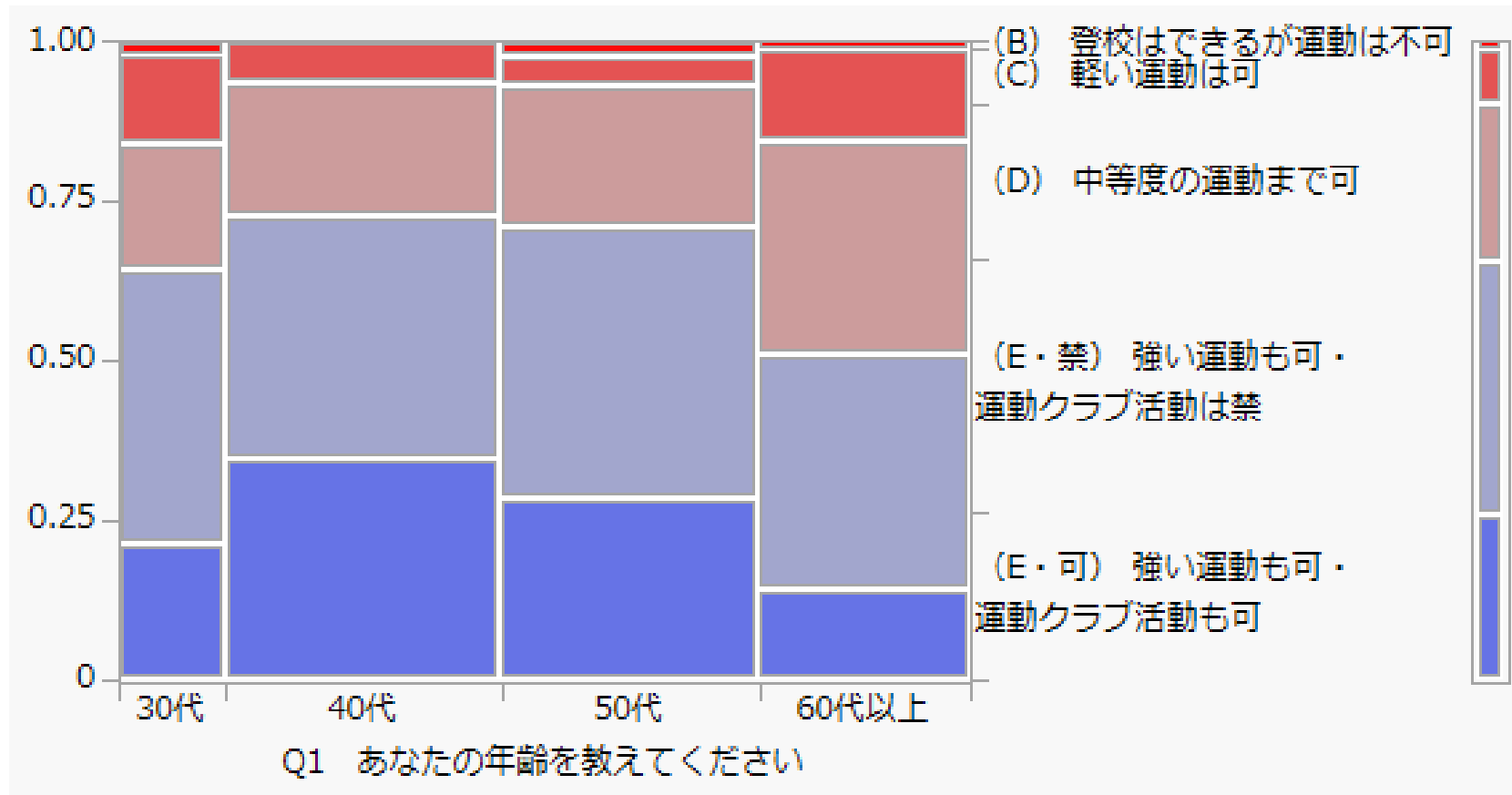
回答者の性別



回答者の性別では
有意差なし

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	3.700	0.4481
Pearson	4.182	0.3819

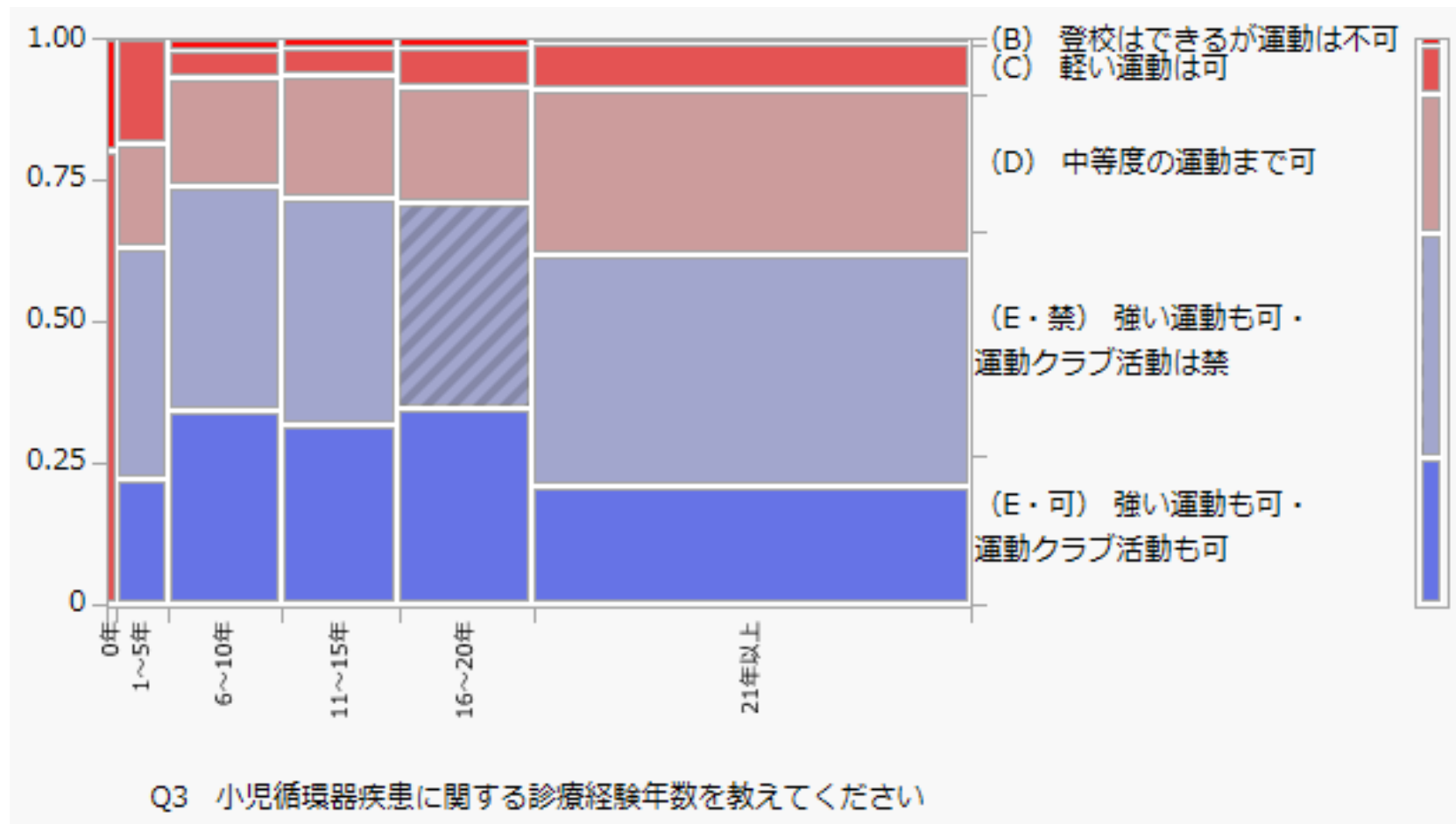
回答者の年齢



60代のベテラン医師と
30代の若手医師は
いずれも厳しめ

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	31.399	0.0017
Pearson	30.002	0.0028

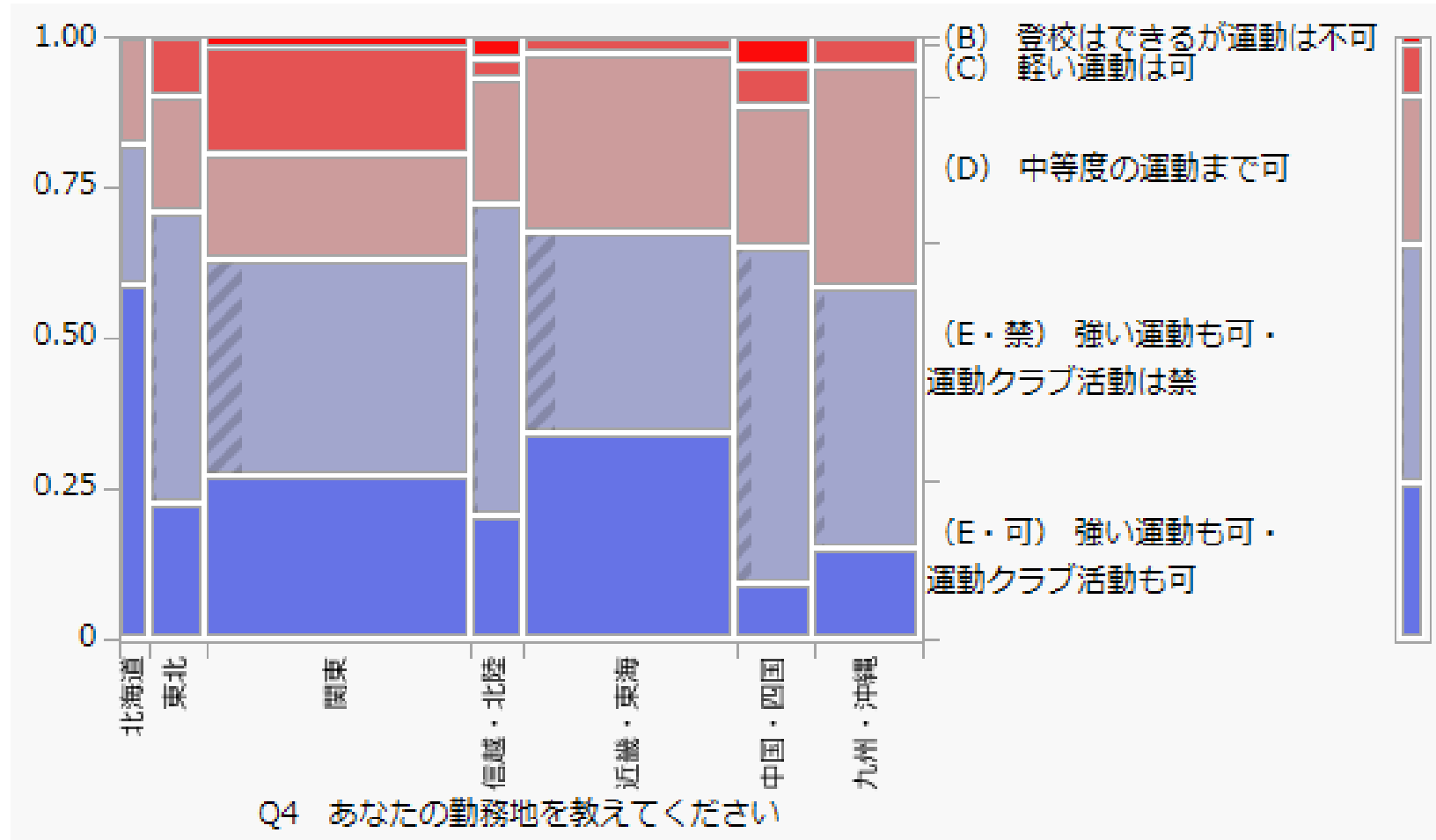
回答者の診療経験年数



回答者の経験年数で
上記と同様の傾向

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	40.693	0.0041
Pearson	66.351	<.0001

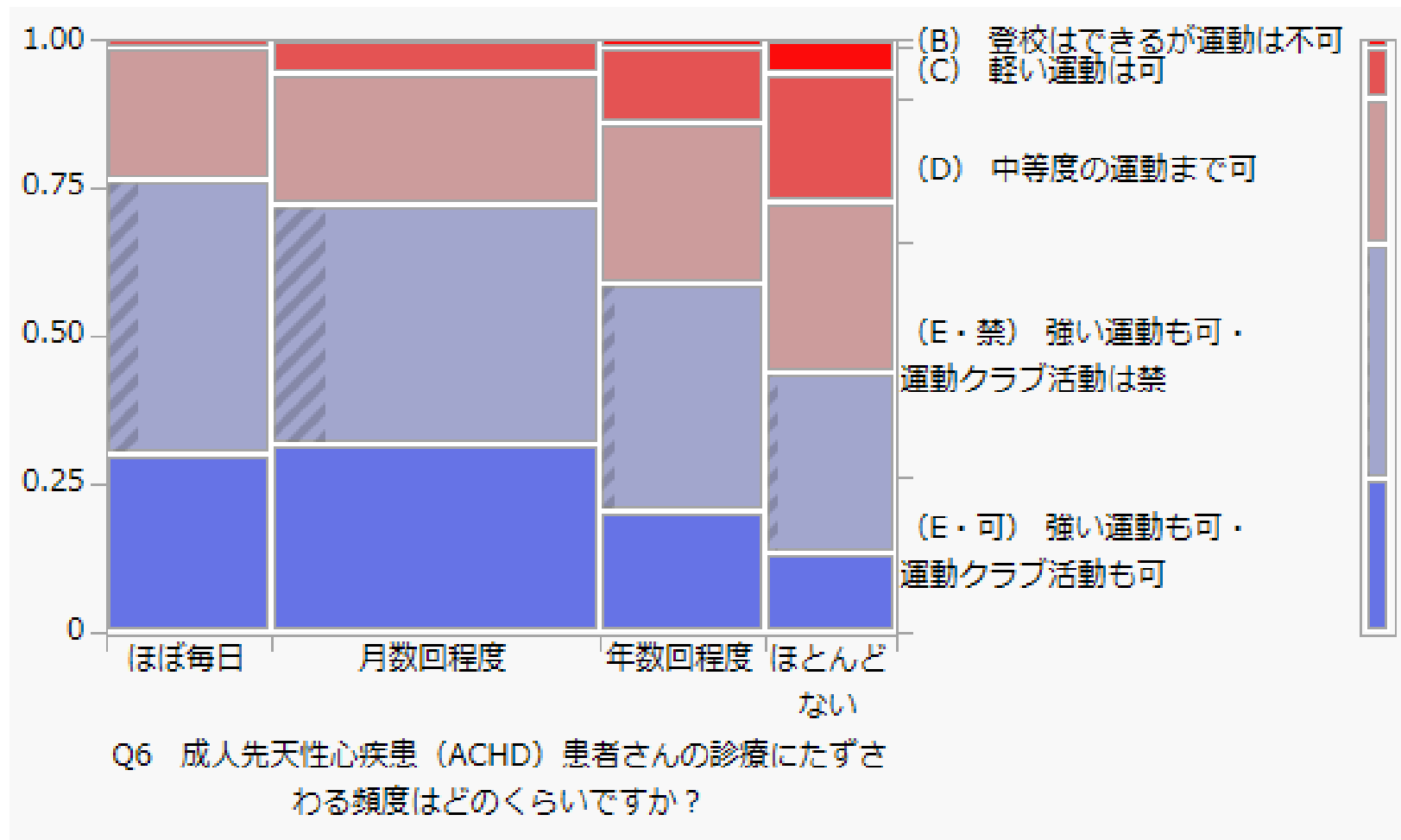
回答者の勤務地域



関東および近畿で（E可）が多い
大都市圏と地方の違い？

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	65.481	<.0001
Pearson	65.069	<.0001

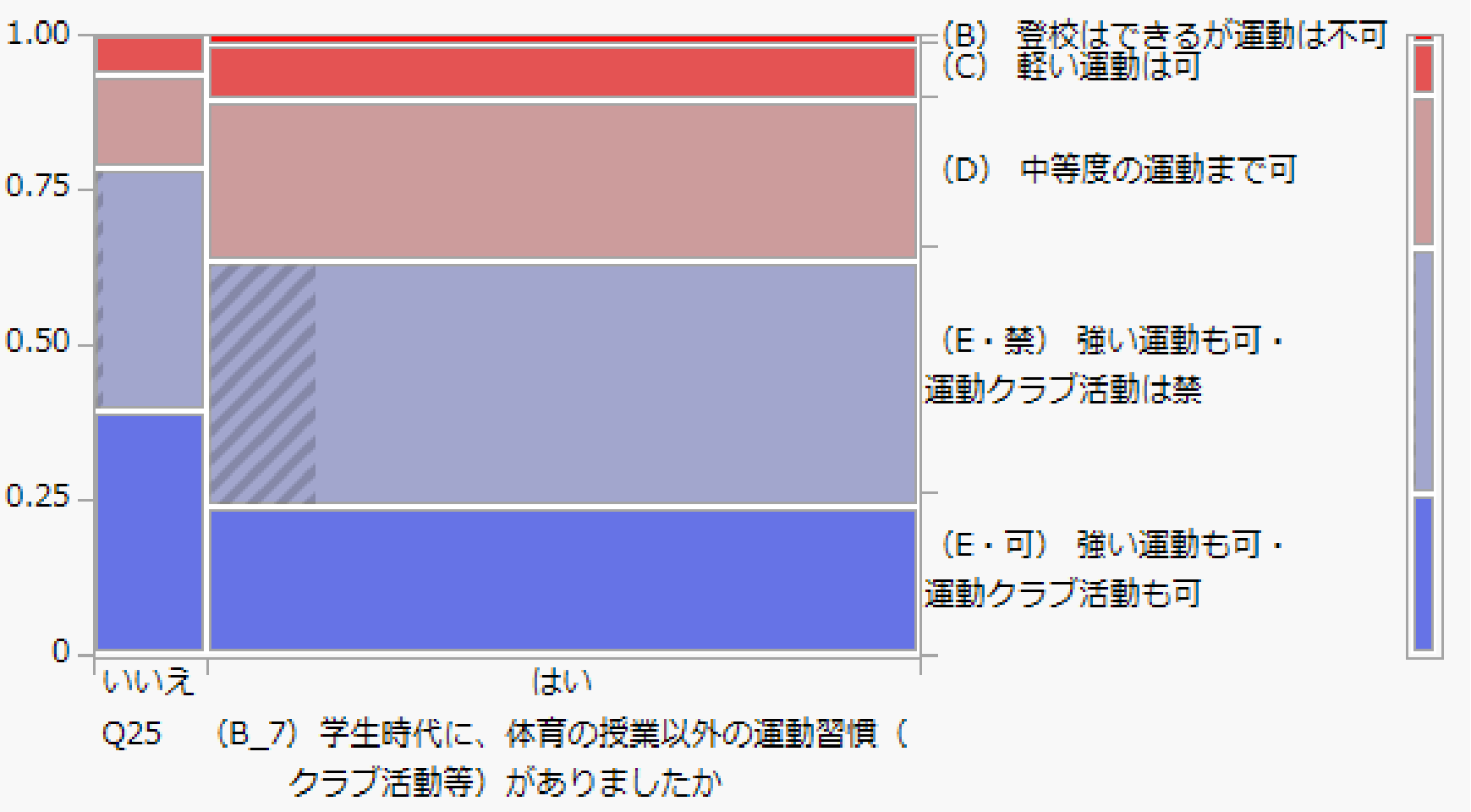
回答者のACHD診療頻度



成人先天性心疾患患者の
診療頻度が高いほど
患者には緩めの指導をしている！

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	50.448	<.0001
Pearson	52.586	<.0001

回答者の部活動の経験



回答者が学生時代に運動部を経験していると
管理が厳しめ

検定	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
尤度比	9.138	0.0577
Pearson	8.571	0.0728

順序ロジスティックス解析結果

要因

Q5 あなたの職種を教えてください
Q13 (A_7) 患者さんへの学校生活管理指導表の指導区分を考えるにあたり、あなたはどのように考えることが多いですか（医師以外の職種の方は「医師以外の為回答なし」を選択し先に進んでください）
Q3 小児循環器疾患に関する診療経験年数を教えてください
Q6 成人先天性心疾患（ACHD）患者さんの診療にたずさわる頻度はどのくらいですか？
Q25 (B_7) 学生時代に、体育の授業以外の運動習慣（クラブ活動等）がありましたか
Q1 あなたの年齢を教えてください
Q4 あなたの勤務地を教えてください
Q10 (A_4) 患者さんの就労支援活動を行うのは、小児科医師が循環器内科医師のどちらが適していると思いますか
Q26 (B_8) 脈が速くなったり軽く息が切れる程度の『中等度の運動』（軽い荷物を運ぶ、通常の自転車こぎ、ダブルスのテニスなど）、あるいはそれ以上の運動をする日は、1週間に何日くらいありますか
Q2 あなたの性別を教えてください
Q17 (A_11) 現在の日本社会は、『はたらくたい』と思う先天性心疾患患者を受け入れる職場環境になっていると思いますか
Q20 (B_2) 慢性疾患で通院や就労時間等の配慮が必要な方は、自分の職場で十分な配慮がなされていると思いますか
Q19 (B_1) 職場などあなたの身の回りで小児期発症の慢性疾患患者さんはいいますか
Q22 (B_4) あなたが先天性心疾患を有していたとしても、仕事と治療を両立できると思いますか
Q30 (B_12) あなた自身の動き方やキャリア観が、患者さんの就労支援活動に関するあなたの考え方に影響を与えていると思いますか？
Q21 (B_3) 慢性疾患を抱える職場の同僚に病気のことを聞くのは悪いことだと思いますか
Q24 (B_6) 先天性心疾患を理由として業務量を制限をしている職場の同僚を受け入れるうえで、『障害者手帳の所持』は重要だと思いますか
Q27 (B_9) あなたの歩く速度は、ほぼ同年齢/同性の方と比べて速いほうですか
Q23 (B_5) 先天性心疾患を理由として業務量を制限している職場の同僚を受け入れることができますか
Q16 (A_10) ACHD患者さんが職場で適応しやすくするために、小児期から就労を意識した患者指導が必要だと思いますか？
Q12 (A_6) 学校生活管理指導表の指導区分がガイドラインに従って適切であったにもかかわらず、運動時の有害事象（心イベント）を起こした症例を経験したことはありますか
Q29 (B_11) あなたは現在の働き方に満足していますか
Q9 (A_3) 就労支援活動を開始するのに適当だと思われる患者さん年齢はどのくらいだと思いますか？

対数値	P値
7.604	0.00000
6.951	0.00000
2.976	0.00106
2.888	0.00129
2.738	0.00183
2.373	0.00424
2.273	0.00533
0.912	0.12244
0.879	0.13207
0.870	0.13501
0.735	0.18419
0.732	0.18547
0.582	0.26203
0.456	0.34983
0.431	0.37105
0.373	0.42331
0.324	0.47383
0.264	0.54424
0.154	0.70127
0.069	0.85364
0.016	0.96430
0.012	0.97183
0.008	0.98217

○ 年齢・診療経験

○ 学生時代の運動習慣

○ ACHD診療頻度

モデル	(-1)*対数尤度	自由度	カイ2乗	p値(Prob>ChiSq)
差	189.79458	79	379.5892	<.0001*
完全	637.05143			
縮小	826.84601			